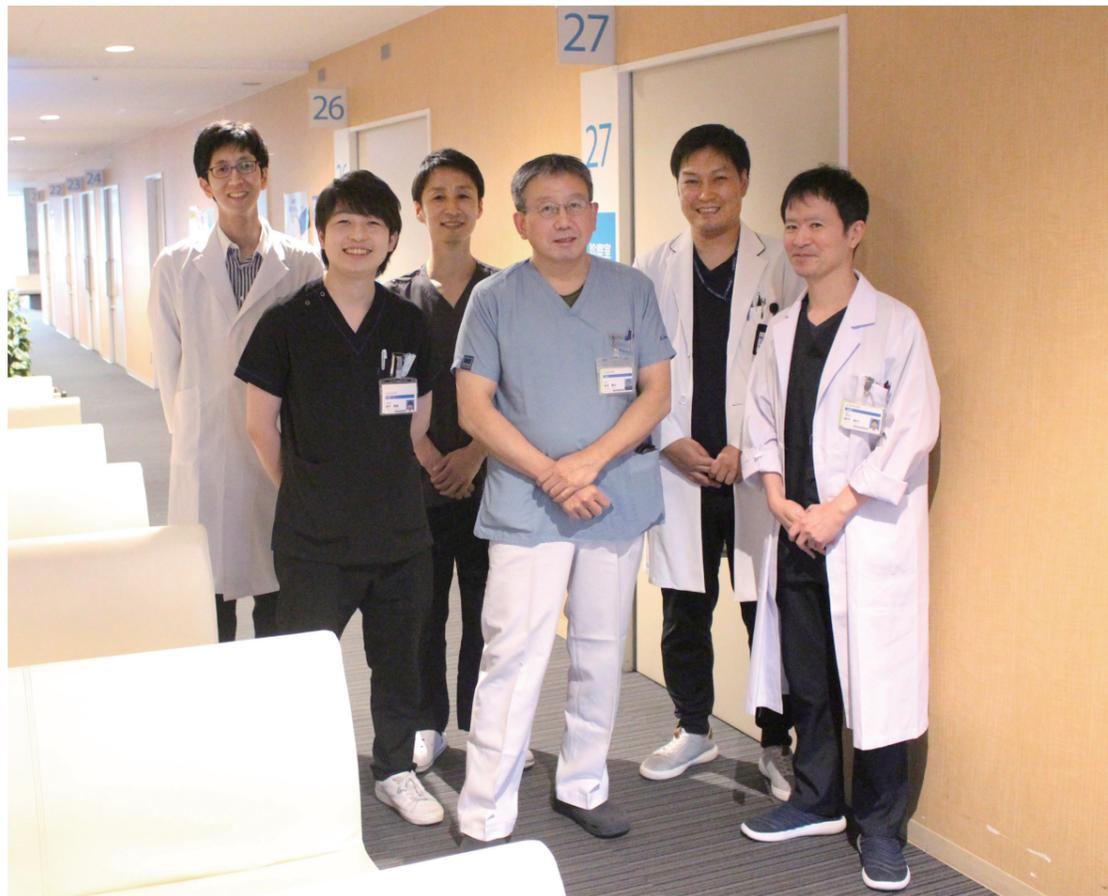


血液検査でわかる肝臓の健康



2024.12
no.208

飯塚病院だより

飯塚病院だより

no. 208

2024年(令和6年)12月10日

編集・発行 飯塚病院 広報課

印刷 マツオ印刷株式会社

01

新任副院長のご紹介(2024年10月1日就任)



副院長
飛野 和則

この度、副院長に就任いたしました呼吸器内科の飛野和則(とびのかずのり)と申します。飯塚病院には合計16年半育てていただいております。職員の皆様と協力し、地域のニーズを先取りし変化し続ける組織づくりと、活気ある職場環境づくりに取り組みたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。

02

大規模災害訓練を9月28日と10月5日に実施しました!

9月28日(土)には、飯塚市消防本部と飯塚病院による合同訓練を実施しました。訓練では「車両同士の事故で約10名の多数傷病者が発生する」想定のもと、緊急車両10台とドクターカーが出動し、負傷者を医療機関へ搬送する一連の対応が行われました。

10月5日(土)の訓練は、当院救命救急センターにて「大雨と落雷により常用電源が停止中に電車の脱線事故により多数の傷病者を受け入れる」想定で行われました。麻生看護大学の学生20名に傷病者役として協力いただき、傷病者を重症・中等症・軽症に振り分けるトリアージや紙カルテでの受付、診療など緊急時の動きについて確認しました。

また10月13日(日)には、飯塚市総合防災訓練



9/28 飯塚消防署 岩崎出張所



10/5 飯塚病院 救命救急センター

が遠賀川河川敷で開催され、災害拠点病院である当院からもDMATが参加しました。

03

飯塚病院公式LINEで医療に関する「知っ得」情報をお届けいたします。

友だち登録して最新情報をゲットしてください!

友だち登録の手順

- QRコードから友だち追加
- ① LINEアプリの「友だち追加」↓QRコード
 - ② 左のQRコードを撮影
 - ③ 追加をタップで登録完了

ID検索から友だち追加

- ① LINEアプリの「友だち追加」↓検索
- ② 「ID」を選択 ↓「@qsu3427e」を入力
- ③ 追加をタップで登録完了

LINE公式アカウント

医療に関する「知っ得」情報を、LINEでお届け。

飯塚病院

肝臓内科のご紹介

当科では、本村院長を含む6名の医師が外来・入院の診療を行っており、主に肝臓のがん(肝がん)の治療を専門としています。肝がん以外にも、B型やC型肝炎、さまざまな原因による肝炎や肝硬変、肝不全の治療も行っています。

特に、肝がん治療に力を入れており、肝臓のがん細胞を焼き切る「ラジオ波焼灼術」という治療法を行っています。この治療は、CT(体の内部を詳しく見る装置)を使って、治療が終わった直後にがん細胞をきちんと焼き切れたかを確認し、足りない部分があればその場で追加の治療ができるため、安全で効率的です。進行した肝がんなど、手術やラジオ波焼灼術が難しい場合でも、他の科と協力して化学療法、放射線治療、血管を通して薬を届ける治療など、患者さんの状況に合わせた最適な治療を行っています。これにより、肝がんに対する一般的な治療は当院でほとんど対応可能です。

また、胆道がん(胆管がんや胆嚢がん)に対しても新しい薬を使った治療を積極的に行っており、手術が難しい患者さんにもできる限りの治療を提供しています。

このように肝がん治療はいつそう複雑多様化が進んでいますので、学会での発表や論文作成など、医師としての学びを大切にし、地域の患者さんに最善の治療を提供することを目指しています。

【監修】 肝臓内科部長 田中 敏介



特集 血液検査でわかる肝臓の健康

皆さんは定期的な健康診断を受けられていますか？健康診断では身体測定や血液検査、尿検査など複数の検査を通して体の機能や病気について調べることができます。また、その結果から「再検査」や「要精密検査」などの通知が来た方もいらっしゃるかもしれません。今回の広報誌では、健康診断で実施される血液検査で確認できる肝臓の機能についてご紹介いたします。

「AST」「ALT」は肝機能を表さない

よく血液検査で肝機能異常を指摘され、肝臓専門医に紹介される患者さんを見かけますが「AST」「ALT」の値が高いことを肝機能が悪いと思われる方が多いようです。これは正確には「肝逸脱酵素」と呼ばれるもので、肝機能ではなく「肝障害の程度」を表す項目です。例えばお酒を飲み過ぎたり、身体に合わない薬を内服したり、太って肝臓に脂肪が沈着したりすると肝細胞が障害を受けます。「沈黙の臓器」である肝臓において、これらの項目は「肝臓の悲鳴」と捉えられます。それではどの検査項目をみて肝機能を評価すべきでしょうか。

肝臓の役割

肝臓は「体内の化学工場」と呼ばれ、絶えず物(タンパク、脂質、胆汁)を作り、エネルギーを貯

蔵し、また身体に不要な物(アルコール、アンモニアなど)を解毒する重要な臓器です。その役割を大きく『合成』『解毒』『胆汁生成』に分類し、検査項目を解説していきます。

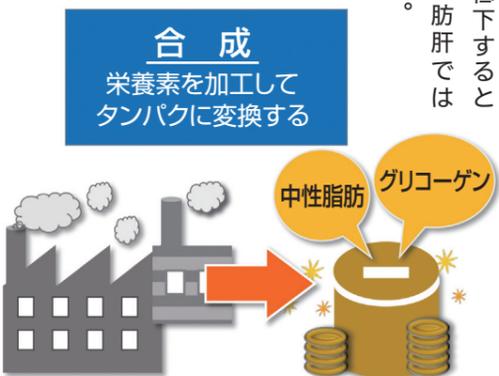


『合成』

「アルブミン」：基準値4.1g/dl～5.1g/dl
肝臓が作るタンパクのひとつで肝機能を表す重要な項目です。専門医が肝機能を評価する際にまず確認する項目でもあり、低値であれば肝機能低下が疑われます。

「CHE」：男性：240～486U/L
女性：201～421U/L

アルブミン同様に肝臓が作る酵素タンパクで、肝機能が低下すると低下し、脂肪肝では上昇します。



合成
栄養素を加工して
タンパクに変換する

最後に

これらは一般的な採血で評価できる項目です。ただ、一つの項目だけをみて肝機能異常と捉えることはできません。血液データを改めて見返してみて、「自身で肝機能を評価してみたいかがでしょうか。」

受診の際は

当院は地域医療支援病院に指定されており、初診時に紹介状がない場合は選定療養費が別途かかる場合がありますが、健康診断を受けられて再検査や精密検査の案内があった場合には、選定療養費は不要となります。

当院の外来や入院での治療が必要と判断された場合、当科では治療方針を決める際には必ず医師全員で話し合い、治療の進捗や変更も随時共有することで、治療が個人プレイではなく、チーム医療であり続けることを重要視しています。このような診療体制を維持しつつ、より良いやり方があれば積極的に取り入れ、常に透明性のある診療を保ち続けたいと思っています。この慢心無く謙虚に取り組み姿勢が、患者さんへのより良い治療提供に繋がると思っておりますので、診療に関してご不満ご不安を含めてお気軽にご相談、ご指摘いただけますと幸いです。

『解毒』

「アンモニア」：基準値12～66 μg/dl

食事摂取により腸管で発生する有害物質で、通常肝臓で分解されますが、肝臓が硬くなるといく肝硬変で肝機能が低下すると分解できなくなり体内に蓄積します。普段の診療で測定されることはめったにありませんが「肝臓の解毒能」を表します。



『胆汁生成』

「γ-GTP」：基準値 0.4～1.5mg/dl

「γ-GTP」は「黄疸」を表し、肝機能が著しく低下した時に上昇します。健診でγ-GTPだけ軽度上昇した場合はほとんどが体質的な上昇です。

「ALP」：基準値 男性：13～64U/L
女性：9～32U/L

γ-GTPと同様に胆汁排泄障害の時に上昇しますが、飲酒や薬剤の影響でも上昇します。

健診日		基準値
食後時間	溶血	
白血球数		3100～8400 /μL
赤血球数		400～539 *10 ⁴ /μL
血色素量		13.1～16.3 g/dL
ヘマトクリット		38.5～48.9 %
MCV		85～102 fL
MCH		28.0～34.0 pg
MCHC		30.2～35.1 g/dL
血小板数		14.5～32.9 *10 ⁴ /μL



最後にもう一つ注目してほしい項目が、肝臓と密接な関係にある血小板です。肝硬変に近づくと血小板が低下していきます。

もし慢性的な肝機能障害を放置されているなら、一度血小板の数値を確認してみてください。以前に比べ低下傾向であれば要注意です。

※「ALT」「AST」「ALP」「γ-GTP」の基準値は「国立がん研究センター臨床検査基準値」が適用された。
https://www.ncc.go.jp/p/ncch/division/clinical_trial/info/clinical_trial/professional/kiunchi_ichiran_2108.pdf